

平成 26 年度 第 1 回 那須烏山市総合政策審議会 会議録

日 時：平成 27 年 2 月 26 日（木）午後 3：30～午後 5：15
場 所：烏山庁舎第 2 会議室

■ 会議次第 ■

- 1 開 会
- 2 辞令の交付
- 3 市長あいさつ
- 4 審議会委員及び事務局の自己紹介
- 5 那須烏山市総合政策審議会会長の互選について
- 6 協議事項

【協議】

- (1) 委員の代理出席の取扱いについて

【報告】

- (1) 那須烏山市総合政策審議会運営及び傍聴に関する要領について
- (2) 次期総合計画・地方版総合戦略、地方人口ビジョンの策定の今後の取り組みについて
- (3) 平成 26 年度 3 月補正予算 地方創生関係予算について
- (4) <参考資料>本市の現状について

- 7 その他
- 8 閉 会

■ 出席者 ■

(審議会委員) 中村会長、遠藤委員、松本委員、八木沢委員、堀江委員、棚橋委員、島崎委員、
両方委員、滝口委員、塩田委員、小幡委員、萩原委員、小堤委員、矢口委員

(総合政策課)

-秘書政策室- 福田室長、佐藤室長補佐、田代係長、関係長

■ 会議経過 ■

1 開 会

事務局 : (平成 26 年度第 1 回那須烏山市総合政策審議会の出席に謝し開会)

2 辞令の交付

大谷市長 : (大谷市長より名簿順に 13 名の審議会委員に辞令を交付)
* 棚橋委員については、遅れるため後ほど辞令を交付。

3 市長あいさつ

大谷市長

：総合政策審議会の委員として辞令を交付させていただきました、これからよろしく申し上げます。また、ご多用・ご多忙のところご参集いただき心より感謝申し上げます。これから、那須烏山市の市政全般にわたり審議いただきたい。また、総合政策審議会は、市における最高部の審議会であり、皆様が双肩を担うこととなるが、気負うことなく意見等を出していただき実のある審議会にしていきたい。審議内容については、次期総合計画並びに地方版総合戦略、地方人口ビジョンという大きなタイトルがある。総合計画は、平成 29 年度までであり平成 30 年からの政策について審議いただきたい。また、地方版総合戦略は、昨年 5 月に日本創成会議により、896 自治体の消滅可能性都市の公表があり衝撃的な内容である。栃木県内 6 市町、八溝地区 4 市町で、そのうち那須烏山市が含まれていた。消滅可能性都市は、20 歳から 39 歳の女性をターゲットとし 30 年後に 50%以下の自治体を数値で表し、本市は、64%のため消滅可能性都市として指摘された。しかし、この指摘を踏まえて那須烏山市の創生に取り組んでまいりたいと考えているため、皆さんにもご審議をいただきたい。国も「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、積極的に取り組むとしている。国の予算については、約 3.5 兆円の補正予算を計上しており、本市においても 3 月 3 日からの定例会により予算計上しており、決定を受けて繰越により 4 月から執行になる。その概要については、国からの交付金は、概ね 1 億円である。その内 5,200 万円については、地域消費喚起型・生活支援型であり、プレミアム付商品券を発行し地域の活性化を図る。発行総額は 2 億 7,600 千円となり、プレミアム率は 20%になります。1 万円の商品券で 1 万 2 千円となる。今までは、わくわく商品券として 5 年間実施しており、取り組みはできており、発行総額が今までの 2.5 倍程度となる。もうひとつは、総合計画と関連があり、地方版総合戦略推進事業とし 5 年間的那須烏山市総合戦略の先行事業とし概ね 5,000 万円を計上している。その中身は、ひとつづくり戦略とまちづくり・しごとづくり戦略の 2 つある。総合戦略・人口ビジョン策定費用、ひとつづくり事業として英語ビレッジ構想やグローバル人材育成事業に 1,200 万円、また、まちづくり・しごとづくり事業として、来年は山あげのユネスコの無形文化財への登録が予定されている。そのため観光人口、交流人口を増やしていくため英語を始めとした多言語化によるおもてなしの案内が必要であり、ホームページの拡充、さらに、まちづくりチャレンジプロジェクトとして皆さん方の魅力のある団体に交付金を助成し、まちおこしを考えていただく経費である。その他、観光振興ビジョン、烏山駅前活性化を含めた経費、健康寿命化を図るロングライフプロジェクトなどを国に提案した。このような総合戦略推進事業を 3 月定例議会に提案している。皆さんにご審議いただき総合戦略・ビジョンの経費も含まれており、那須烏山市の戦略を審議いただきたくよろしくお願ひしたい。また、宇都宮大学の中村教授には、総合計画について 1 からご指導いただき感謝申し上げます。また、今後は新たな戦略について新たなメンバーとしてご指導いただきますようお願い申し上げます。これから委員の皆様もどんどんと自分の意見や活発な議論をしていただき総合戦略の策定に取り組んでいただきたい。総合政策審議会にご

4 審議会委員及び事務局の自己紹介

各委員・事務局：各委員及び事務局より自己紹介

事務局：那須烏山市総合政策審議会設置及び運営条例の第 7 条により委員 14 名のうち 14 名全員の出席であり会議が成立していることを報告

5 那須烏山市総合政策審議会会長の互選について

- 大谷市長 : 資料の3ページの「那須烏山市総合政策審議会設置及び運営条例第6条第1項」の規定に基づき、会長は委員の互選により決定するとなっておりますが、現総合計画の策定において総合政策審議会会長とご尽力をいただいた宇都宮大学国際学部の中村祐司教授に会長をお願いしたいと考えているがいかがか。
- 委員（一同） : (同氏を会長とすることに異議なし)
- 中村委員 : (了承)
- 事務局 : 次に「那須烏山市総合政策審議会設置及び運営条例第6条第3項」により職務代理を会長が指名することとなっている。会長お願いします。
- 中村会長 : 両方委員お願いします。
- 両方委員 : (了承)
- 大谷市長 : それでは、会長に中村委員、職務代理に両方委員お願いします。
(大谷市長退席)
- 事務局 : 協議事項の議事進行につきましては、中村会長よりお願いします。
協議の前に会長よりあいさつお願いします。

5 協議事項

- 会長（会長あいさつ） : 那須烏山市とは、総合計画・前期基本計画・後期計画策定以前から関わりがあり勉強をさせていただいている。また、県内の市や町と接していますが、那須烏山市は、打合せの段階やあいさつなど謙虚に接していただいている。ここで学んでことを県内の市や町にも伝えてまいりたい。総合政策審議会については、メンバーも前回のメンバーもおり、また団体のメンバーでは、那須烏山市を支えている方たちであり知恵をいただきながら進めてまいりたい。また、私も那須烏山市と付き合いがあり好例ですので学ばしていただき、審議会を進めてまいりたいのでよろしくお願いします。
- 会長 : 今日は、トータルで90分であり5審議ある。早速、協議事項に入りますが報告の(2)が、私自身、前からやっておりますが後期計画ができてから1年程度離れており、思い出しながら何をやるのかを考え、ゼロベースで皆さんと整理できたらと思っている。今回は報告(2)のところで時間を取り、一体我々の審議会は、何をやるのかについて問題意識を共有できたらと考えています。協議事項の委員の代理出席についての説明を事務局よりお願いします。
- 事務局 : 基本的には委員に委嘱しておりますので、委員の皆様の出席は原則であります。各団体の方に依頼しており、また短い期間の中での審議となりますので、代理出席を認めていただき、代理出席でも協議内容の可決をさせていただきたい。
- 会長 : 団体の方によっては、時間的都合もありますので代理を認めていただきたいとのことではありますがよろしいでしょうか。
- 委員（一同） : 異議なし。
- 会長 : 報告の審議会の運営方法に関する事について、事務局より説明願います。
- 事務局 : 那須烏山市総合政策審議会運営及び傍聴に関する要領について説明。
第3条の会議の公開については原則公開とする。なお、会議の円滑な運営に支障がある場合は、審議会の決定により当日の傍聴を許可しないことできる。第6条会議録の作成については、会議録は市ホームページ等を活用し公表に努め

るとされており公表していくこととする。なお、委員の皆様によくの意見をいただきたく委員名は公表しない。

会長
事務局 : 要領により定められており、前回の総合政策審議会と同じ方式でよいか
: 前回と同じ方式を取る。

会長 : 本題に入ります。今日のポイントとなります。総合政策審議会では何をやるのか、どんなことをやるのか、どの様なやり方で進めていき議論するのか。この1年間に限っては、先ほどの話にもありましたように人口ビジョン・総合戦略を策定していくこととなる。それでは、取り組みについて事務局より説明をお願いします。

事務局 : 資料 P7「次期総合計画及び地方版総合戦略・地方人口ビジョン策定の今後の取り組み」により説明

会長 : 概略的な説明でありますので、わからないとことがあればご質問いただきたい。今回は、歴史的な時期に遭遇したということである。本来であれば次期総合計画の策定であり時間的には余裕がある。しかし、国が地方創生を行うとし、しかも予算を前倒し、来年度から実施するとし、自治体間を競わせている。しかし、これを活かして、市町村ために実施して行こうという流れである。これは、国が求めているとしても全国の自治体で、「人口ビジョン」と「総合戦略」の策定に取り組むとしており、このようなことは、歴史的に見ても二度とないようなことである。総合計画については、どうでもいいというわけではなく、「人口ビジョン」と「総合戦略」で決めたことが次の総合計画の柱となるため無関係ではないが、まずは、「人口ビジョン」と「総合戦略」については、時間がない中で来年の3月までには策定しなければならない。「人口ビジョン」のスタンスは、2060年とするのか2040年とするのか調整することとなり、「総合戦略」については、5年間とし白紙から作るのではなく、資料を基に大きな方向性を示していく。ある意味、住民代表であり、地域総合力を担う方たちであり、皆さんの知恵をどの様にぶつけていくかということになる。例えば「人口ビジョン」の場合、人口を増やすだけがいい、いいとは言わないが、人口減少はしかたがない、緩やかに減少となるが、交流人口を増やす、住んでもらわなくても外から楽しんでもらう、交流を図ってもらう。そういう交流人口、観光人口、誘致人口に舵を切る方法もある。そういう大きなところで具体的に考えていくことになる。また、人口が減るのではなく、定住人口により人口を維持する、維持するだけでなく増やしていくというスタンスによって取り組みが変わってくる。そのためこういう点を議論していくことになり、大きなことに取り組むこととなる。流れからすると今までにないことであり、しかも短期間で取り組まなければならない。理不尽に思うかもしれないが理解していただきたく、この点についてどのようなことでも結構ですので意見があれば質問いただきたい。ひとつ確認であるが、会議についてはどの程度であるか、1ヶ月か2ヶ月くらいか。

事務局 : 2ヶ月に1回、3ヶ月に2回などを検討している。資料、データ等をそろえなければならない。なお、資料については随時、委員の方に提供して参りたい。

会長
委員 : 会議については、2ヶ月に1回、3ヶ月に2回になるとのこと。その他どうか。
: 先日、大田原市で地方創成会議の増田氏、前総務大臣のシンポジウム、後援会がありました。市、行政として参加したのか。参加したのであれば参考にさせていただければ。また、大田原のシンポジウムは八溝広域の組織であるが市は

- 含まれているのか、含まれていないのであるならば参加すべきでは。
- 事務局 : 大田原市は、定住自立圏構想として大田原市が代表となり手を挙げている。そして近隣市町村で定住自立圏構想に取り組んでいる。定住自立圏構想にはいろいろありますが、例えば、細かい点では、体育館など施設がない市町村が大田原市の施設を使わせてもらうとか、観光ルートの流れを作りましょうとかなどがある。定住自立圏構想は、取り組み内容が多くあるため大田原市がどのような取り組みをしているのか、分かりませんが、何箇所かがそういう取り組みをしているところがある。
- 委員 : 座長が増田氏であり、そういう予定が分かっているならば、消滅自治体として指摘されている那須烏山市は参加すべきでないか。また、市長の日程をみると在庁となっているため行くべきではないか。
- 事務局 : 大田原市の定住自立圏構想の中に入ることは、市として難しいと思うが、そのようなご意見もひとつの方法である。または、近隣市町で取り組むこと方法もあるかと思う。しかし、相手があることなのですぐに決定することは難しいので今後検討してまいりたい。
- 事務局 : 増田さんの講演等の対応であります。私どもも群馬でフォーラムがあり、市長と私で聞いている。増田さんは、すばらしい意見であり、日本創生という今回の問題のきっかけを作った方であり、機会がある限り聞きに行っている。会議の途中で申し訳ありませんが、私と島崎委員について次の会議があり途中で退席させていただく。重要な会議の途中で退席、大変申し訳ない。
- 会長 : 委員のご意見の中で、「人口ビジョン」等にも広域的なこともふれることもあるのか。ただ、市が中心にならなければならないのか。
- 事務局 : ふれることもできる。ただし市が中心となる。なお、先ほど説明いたしました国から提供される地域経済システムでは、観光交流がどういうところで交流されているかとか、工業者さんの状況、取引の状況は示されるかわかりませんが、重点のところがわかるらしいので、皆さんに状況を示せばと考えている。
- 会長 : その他、意見はありますか。何をやるのかという点について、大きく言うと資料を基に総合戦略を1年かけて作成することになる。
- 委員 : 地域、地域によって特徴がある。一例として、結婚事業とかすべての教育委員会に学生の意見を普及するなどの問いかけや野うさぎクラブなどの活動がありますが、女性の面から見たまちづくりを図る必要がある。極論だが、芳賀町では、工業団地に電車で通勤している方たちがいるが、環境がよければ旦那さんの職場はどこでも良い。また単身赴任でもよい。子どもを育てやすい地域があり、ましてや親元が近く安心できる、教育が良いなどのところであれば、そういう点がベースとなるのかと思う。今でも、市では、企業誘致、サタデースクール、福祉などいろいろと事業に取り組んでいるが、アクセスが悪いなどにより、人口が減少し対応できない、まちが衰退する流れになる。そういう流れでの企業の立地は厳しい、一方、環境、空気が良いところで子育てができる環境の魅力に取り組めば、第2、第3の居住となるのではないかと、旦那の仕事先は関係ないのではないかと思う部分もある。この前、総合政策課長とふるさと納税の取り組みについて話をしましたが、私が思うところでは、ふるさと納税は、まちに魅力があり産業がないところが早急に作っている。金融機関は、産業を育てあげるところである。金融機関は、そういった取り組みを行いながら支援できるし、企業の再生もできる、また、全国にネットワークもあるのでバックアップできる。金融機関としては、企業を育てることも併せて考え、そうす

れば、地方創生とし地元での雇用創出や那珂川町などで取り組んでいるような6次産業化などに繋がり、小さい企業が大きくなっていけばと考えている。人が増えれば、産業が生まれるので具現化できれば良いかと考えている。

会長 : ありがとうございます。貴重な意見であり、次回以降、時間を掛けて議論していく。先ほどの説明で人口ビジョンと総合戦略を同時並行で進めて行くとしており、両方が密接に絡んでくる。その他ありますか。

委員 : 人口流出はさせない。先ほどの意見のとおり旦那さんは単身赴任でもいい。奥さんと子どもたちが安全で、しかも居住しやすい環境を作っていかなければならない。なおかつ、知恵を絞り6次産業化を図り、那須烏山市の特産品を考えていただければ、ふるさと納税にも繋がっていくと思う。また、学童保育等は健康な子どもの保育であるので、育児は母親が重責を担うので、病後児保育が地域創生の中で活かされてくれば母親の負担軽減になる。全体的に母親に負担を掛けない、みんなで子どもを育てる地域を作れば、居心地よく子育てができると思う。人口対策についても相乗効果が生まれてくると思う。

会長 : ありがとうございます。先取りした意見であり、まさに今の意見は、次回以降、じっくりと議論して参りたい。皆さん、やるべきことは理解できましたか。人口ビジョンと総合戦略を作るという点で、スケジュールなどどうでしょう。

委員 : 今後、市のほうで資料を準備いただけるとのことであり、資料に基づいてわが市の現状とのマッチングがでてくると思うが、ぜひ子育て関係で、皆さんの意見で子どもから重要であるとのことなので、子どもについての資料、実態、那須烏山市の実態を細かく調べていただきたいことがあります。個人情報もあるので、まずは現状を知ってからスタートしないと違う方向に進んでしまうのではないかと思います。

会長 : 4月から1年かけて策定、早ければ年内に策定していくことでよいのか。

事務局 : はい。

会長 : 年度内に一括して資料をだすのではなく、議論していく中で資料をそろえて行くことになるのか。

事務局 : はい。先ほどのお話で戦略にもいろいろやり方があると思うが、子どもの関係や雇用の関係など、様々な問題があると思うので、それぞれの分野でどういう点に重点をおくのかを皆さんの意見を聞きながらまとめていく。

会長 : 市長が最高位の機関であるのでおしゃっていた。特別なメンバーであるので、委員の方も知りたい情報はどんどん言っていただいて、無理なものもありますが個々の委員より言っていただきたい。

委員 : 自分たちの情報だけでは、氷山の一角であるので、市で捉えている情報を示していただきたい。

委員 : 「人口ビジョン」とはどの様な角度から実施していくのか。

事務局 : 例として、国の人口ビジョン等を提供したい。そうすればイメージが湧いて来るかと思う。

会長 : 基本的な勉強をするという点ではよいのではないかと。

委員 : 総合戦略で目指すまちとは、いろいろな内容があるかと思う。この中の1つに、あればよいと思うのが、「この市に住んでみたい」ということである。個人的なことであるが、音楽活動をしており、週3回宇都宮市に行っている。宇都宮市には市民センターがある。那須烏山市の人口規模ぐらいあり、行政の出張所だけでなく、練習室、学習室、図書館などがあり多くの人々が来ている。中高年の方も多く来ている。子どもたちもいて交流が図られ、効果をあげている。

また、昔は、企業が来る場合、子どもたちが育てられるのかという点をポイントとしている企業もあった。総合戦略を作るにあたり、一番は雇用、経済だろうが、そうでない部分もあるのではないかな。

- 会長 : ありがとうございます。そういう点についての意見もあると思う。次回以降、議論してまいりたい。皆さん、進め方については共有できたとのことでよいか。
- 委員 : お願いがあります。人口減少した場合、那須烏山市は、どういう状態となるのかというシミュレーションと 30,000 人のときはどういう状況なのかというシミュレーションを示してほしい。人口減少の状況が自分なりに理解できていないのでお願いしたい。
- 会長 : ご指摘にありました、人口が下がったらこうなるというものは提供できるか。
- 事務局 : 検討し、資料を用意したい。ただし難しい部分もある。
- 委員 : このまま行けば人口がどうなるというシミュレーションは作成できるが、人口が減少した場合、社会的、経済的、行政的にどうなるというのは難しいところだろう。
- 委員 : 簡単に言えば、税収が減り、今の行政サービスが維持できなくなり、市がなくなるということだろう。
- 委員 : 市の人口の推移に関するホームページをみると、何十年後かに人口に対する年齢別の比率を見ていくと、消滅の時期の年代別の人数がでてくる。その年代の人たちがはたして働き盛りか、高齢者が 6 割、7 割の状態であると収入がない状態など。そういう状態は予測できる。
- 会長 : 次回以降、示すこととしていく。その他、ありますか。
- 委員 : ジオパーク構想と戦略はリンクしていくのか。
- 事務局 : 可能性はあります。
- 委員 : 例えば、ジオパーク構想はだめだということもありえるのか。
- 事務局 : 審議会として、意見がまとまれば報告としてだして参りたい。
- 会長 : いろいろな考え方があるが、人口減少は大変なことである、悪いことだという発想そのものを疑って、減ることを前提にして取り組む方法もある。人口減少を開き直ってみんなで助け合うとかの仕組みを考えていく方法もあるので、それらを含め次回以降検討していくこととする。皆さん、ポイントについては、共有いただけたとのことで、次回以降に意見をいただきたいと思う。それでは、次に今年度に補正予算がついてであるが、いかに国が前倒しで進めているか、策定していないのに予算がついており疑問に思うところがあるが、説明お願いします。
- 事務局 : 「(3) 平成 26 年度 3 月補正予算 地方創生関係予算について」資料に基づき説明。
- 会長 : 次回以降に繋げていく内容である。いままでにない先行という形で進めていくこととしているが質問はありますか。
- 委員 : 観光部分がでていたが、道の駅、ジオパークなどいろいろでてきており、そういう部分も審議会で決めていくのか。
- 事務局 : いろいろな観光がある場合、すべてに取り組むことは難しいので、戦略としてどこに重点を置くのかという点が必要になると思う。
- 委員 : 財源について、平成 26 年度補正予算で交付金がついて、平成 27 年度へ繰越すとのことだが、平成 28 年度以降も財源は継続されるのか。
- 事務局 : 今回、国において先行型として予算がついたが、戦略については、平成 27 年

度から平成 31 年度まで取り組むため、その内容によって国がどれだけ予算を割り振るかは、これから決まっていくと思う。そのため現時点では、いくら交付されるかは決まっていない。先に大きく予算がきて、先細りする可能性もある。そのため、我々が取り組むべき重点的項目に集中して取り組むために、知恵を絞って作りましょうというのが考え方の焦点になる。

- 委員 : 先行的に実施する部分は、分けて考えた方が分かりやすいと思う。
- 会長 : その他ありますか。
- 委員 : グローバル人材育成事業、ひとづくりのところに ALT 活用があるが平成 27 年度から実施するののか。
- 事務局 : 平成 27 年度中に実施する。
- 委員 : ALT 活用については、近隣の旧馬頭町では、国際交流員をおいてかなり精力的に活動していたが、同じように実施するののか。
- 事務局 : 国の国際交流協会からの派遣と現在、学校で取り組んでいる英語コミュニケーション事業のように業者との委託で実施している場合がある。国際交流協会による派遣で市の職員として対応すると、例えばアパートを用意するなどの経費が必要となる。そのため業者との委託で対応することとなるのではないかと思うが、まだ詳細は決まっていない。
- 委員 : 国際的にいろいろな方がいる。日本のために特技をいかし何かしてみたいと方、能力を持っている方もいるので、そういう方を活用していただければと思う。
- 事務局 : 今後、詳細については担当課で調整していくことになる。
- 会長 : 最後になりますが、最後は参考資料となりますが、事務局で説明をお願いします。
- 事務局 : 「(4) <参考資料>本市の現状について」資料により説明
- 会長 : この部分は説明のみで次回以降とし、その他ありますか。
- 委員 : 参考までに、商工会で本年度、未来づくり会議ということで取りまとめをしている。那須烏山市がどういふふうに未来に希望をもってまちを作ればいいのかという、市の活性化を図るための施策をまとめており、最終的には商工会の取り組みや行政への提案などをまとめることとなると思う。現在、詳細をまとめており、いずれ市の方に提出されると思うので、計画を作るうえでも無視できないと思うので、その点についても考慮されたい。
- 会長 : どんどん示していただければ参考となる。
- 委員 : 議会で事業仕分けに取り組みたいと話していたと思うが、その点についてどうなのか。しばらく事業評価を実施していないがどうなのか。
- 事務局 : 現在、市では、実施計画を作り内部により管理をしている。この実施計画について外部の意見を聞くというシステムを検討していたが、今回の戦略では、毎年事業の効果検証を行うこととなっている。そのため今後は、とりあえず戦略の検証に取り組んでまいりたい。この検証は、事業仕分けと違う点は、客観的指標、数値が重要になり目標に達成できなければ事業を廃止することもあるので戦略を通して事業評価等に取り組んでまいりたい。
- 会長 : その他ありますか。
- 委員 : 先ほどのシミュレーションは作っていただけなのか。
- 会長 : 可能な範囲で示せるか
- 事務局 : できる範囲で示したい。どういった行政サービスがなくなるとか、具体的なものを考えていきたい。
- 会長 : 以上で終了します。次回以降お願いします。 以上

